

第4学年国語科学習指導案

児童 男子11名 女子9名 計20名
指導者 齋藤 由美子

- 1 単元名 材料の選び方を考えよう
教材名 「アップとルーズで伝える」(説明文)
「四年三組から発信します/進んで伝える」

2 単元について

(1) 児童について

児童は、1学期に『「かむ」こと力』で、要点をまとめたり、大まかな段落構成について考えたりする学習をしてきた。その結果、説明文の学習では、指示語や接続語、文末表現等を手がかりにすることが重要であることを理解することができるようになってきている。しかし、何が重要語句か判断できず、要点をまとめる際支援が必要な児童が多い。

この単元に関する意識調査をした結果、『新聞を書くことが好きですか。』という質問に対しては、20名中17名は好き、まあまあ好きという回答していた。理由としては、記事を書くのが好き、新聞記者になったようで楽しい、自分たちのことを伝えられるからなどであった。逆に、新聞を書くことがあまり好きではない、好きではないと答えた3名の理由としては、記事が思いつかない、文章を書くのが好きではないということ挙げている。1学期、グループごとに社会科見学の新聞を作るという経験をしているので、みんなで作り上げたという達成感があったと思われる。しかし、一方では、記事を書くことに抵抗をもっている児童がいるので、「書きたい!」と思わせるような手立てを組んでいく必要がある。

(2) 単元及び教材について

本単元では、「段落相互の関係に気をつけながら、中心的な事柄を読み取ること、相手と目的に応じて選材して、分かりやすく伝えること」をねらいとしている。

本教材は、写真と文章を対応させて読みながら、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成をとらえ、その上で、情報収集から発信までの活動を行う複合単元である。また、「アップとルーズで伝える」は、児童にとって身近な「テレビ中継」をテーマにした説明文である。普段、無意識に見過ごしている『映像のとり方』そのものに焦点をあて、「アップ」と「ルーズ」という専門用語を具体的に説明していくことで、メディアを発信する側の気持ちに迫っていくことができる。

さらに、わかりやすい資料として使われており、文章(段落)と対比させながら読み進めていくことができる。視覚的理解に支えられながら、語句の理解や、段落の内容・段落相互のつながりを学習することができる教材である。

(3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、自分で集めた材料の中から、相手や目的に応じて一番伝えたいことを選び、相手に応じた書き方で表現することができるようにさせたい。その際、「アップとルーズで伝える」で学習したそれぞれの特徴を考えながら、自分が伝えたいことはアップとルーズのどちらで伝えるべきか考えさせ、写真と文章とでまとめさせたい。

また、新聞という形で発信するため、日頃から新聞の写真や見出しに気をつけさせるようにし、新聞を書くことに対して意欲をもたせたい。

仮説に関わっては、仮説①「課題を明確にする工夫」として、個人新聞を書くという単元のゴールを常に意識させ、目的に応じてアップとルーズを使い分けることの必要性を理解させていきたい。仮説②「自分で読み進める工夫」では、中心文を見つけることができるようにするため、文末表現や主述に気をつけさせたい。また、新聞作りの際は、発信する相手が気づいていない学校自慢という観点で写真をとらせ、記事を書かせていきたい。仮説③「言語能力を高める工夫」としては、段落構成を理解するために接続語の役割に気をつけて、読み取らせるようにしていきたい。

3. 単元の目標

〔目標〕

- ◎段落相互の關係に気をつけながら、中心的な事柄を読み取る。
- ◎学校や地域にある物について知らせるために取材し、相手と目的に応じて選材して分かりやすく伝える。

〔国語への関心・意欲・態度〕

- ・社会・文化的な文章に興味をもち、進んで読もうとしている。

〔書くこと〕

- ・取材した事柄を相手に応じて分かりやすく書いて知らせる。(書くこと ア)
- ・書こうとする題材に必要な事柄を集める。(書くこと イ)

〔読むこと〕

- ・それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読む。(読むこと イ)
- ・写真と対応した部分に注意して読み取り、アップとルーズのそれぞれの特徴をまとめる。(読むこと オ)

〔言語についての知識・理解・技能〕

- ・文章全体の中での、それぞれの段落の役割を理解する。(言語事項 オ(イ))

4. 指導計画と評価規準 (本時 4 / 16)

次時	学習活動	関・意・態	書くこと	読むこと	言語事項	
一次	1	○オリンピックの新聞に掲載された写真を見て、表情や動きなど伝わってくることを出し合った後、「アップとルーズで伝える」を通読し、初発の感想をもつ。 ○意味の分からない語句や指示語が指し示す内容について調べる。	オリンピックの写真から伝わってくることを、進んで話そうとしている。(観察)			新出漢字や語句の意味を理解している。(観察)
	2	○大まかな文章構成をとらえながら、学習計画を立て、『和賀西新聞社から発信!!』と題して、単元のゴールで個人新聞を書くということを確認する。	進んで学習の計画を立てようとしている。(観察)			文末表現や接続語に着目しながら、大まかに文章構成をとらえている。(観察)
二次	3	○写真の写し方の違いに気をつけながら、①・②・③段落を読み取る。	内容に興味をもち、段落相互の関係を考えながら、文章全体を読もうとしている。(観察)		段落と段落との関係や指示語に着目し、アップとルーズの意味を読み取っている。(観察、ノート)	段落の中心文や段落相互の關係に気をつけて読んでいく。(観察、ノート)
	4 (本時)	○④・⑤・⑥段落を読み、「アップ」と「ルーズ」のちがいを読み取る。			段落と段落との関係や接続語に着目し、アップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあることを読み取っている。(観察、ノート)	

	5	○⑦・⑧段落を読み、筆者の伝えたいことは何かを考え、文章から読み取る。			段落と段落と目的の関係に着目し、アッブを目的に一つづつ使っている。読み取っている。(観察、ノート)	
三次	6	○文章全体の構成や要点や指示語、前までの学習を手がかりに考える。	段落相互の関係を考えながら筆者の伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめている。(観察)		段落と段落、全文との関係がまとまっている。(観察・ノート)	段落のまとまりとその役割をとらえている。(観察・ノート)
四次	7	○「四年三組から発信します」を読み、活動の見通しをもつ。	活動の内容に興味をもち、話し合いに積極的に参加しようとしている。(観察)	活動の見通しをもつたり、発信する内容や相手、め方を考えている。(観察・ノート)	筆者の伝えたいことを読み取っている。(観察、ノート)	
	8	○教科書の作例の工夫について話し合う。			それぞれの段落の小見出しを考え、段落を相互に読み取っている。(観察、ノート)	文章全体における段落の役割を理解している。(観察、ノート)
	9	○題材について考え、自分のまとめ方のイメージをもつ。	相手や目的を意識し、意欲的に活動に取り組んでいる。(観察)			見出しや振り仮名など、伝える相手によって、書き方を工夫して理解している。(観察、ノート)
	10	○取り上げる題材を決め、取材する。		相手や目的に応じて、必要なことを調べて集めたり、選んだりしている。(ノート)		表現するために必要な文字や語句について調べたり、文と文とのつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。(観察・原稿)
	11	○材料を選び、記事を書いたり割り付けをしたりする。		見出しや割り付けを工夫し、相手や目的に応じた言葉や表現、内容を考えている。(観察・原稿)		
	12	○下書きをし、互いに読み合う。				
	13	○清書し、仕上げる。				
	14	○書いた作文をお互いに読み、よさを認	進んで文章を読み、感想を	相手や目的に応じた分		文字や語句、指示語や接続

	め、高め合いながら交流する。	もとうとして いる。(観察)	やすい記事に なっているか を考え、感想 を書いている。 (観察・感想)		語の使い方 に気をつけて文 章を読んでいる。 (観察・ カード)
--	----------------	-------------------	--	--	--

5. 本時の指導

(1) 目標

アップとルーズのちがいをまとめることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
評価の観点 アップとルーズのちがいについてまとめることができる。	アップとルーズで伝えられること、伝えられないことは、それぞれ逆であることに気づき、まとめている。	「しかし」「でも」という接続語の役割に気づき、それぞれ伝えられること、伝えられないことをまとめている。	「～が分かります。」 「～が分かりません。」にサイドラインを引かせ、主語を見つけさせる。

(3) 展開 (4/16)

段階	学 習 活 動	支援・留意点 (・) 評価 (*)
つかむ (5分)	1. 前時想起 2. 学習課題の確認 アップとルーズでは、どんなちがいがあるのだろう。 ① 読みの視点を確認する。 ・「分かります」「分かりません」	・前時学習した「アップ」「ルーズ」のとり方の違いを確認する。 ・児童から読みの視点が出ない場合は、音読後に考えさせるようにする。
ふかめる	3. 学習場面の音読 4・5・6段落の音読をする。 ・一人読み ・指名読み 4. 学習課題の解決 ① 2枚の写真を見て分かることを発表し合い、写真で分かることが、文章でどのように表現されているか、確認する。 ルーズの写真 ・たくさんの人がいる。 ・選手たち、観客たちが手を挙げている。 ・選手も観客も喜んでいる。 アップの写真 ・口を大きく開けている。 ・手を広げている。 ・走っている。	・読みの視点について探しながら、はっきりと音読させる。 ・情報の受け手の立場として何が写真から伝わってくるのかを発表させる。 ・難語句について意味の確認をする。 「ユニホームが風にはらむ」 「一体となって勝利を喜び合う」

<p>(28分)</p>	<p>②アップで分かること、分からないことをまとめる。 ・分かること…細かい部分の様子 分からないこと…うっさされていない多くの部分</p> <p>③ルーズで分かること、分からないことをまとめる。 ・分かること…広いはんいの様子 分からないこと…各選手の顔つきや視線、気持ち</p> <p>④ルーズについて自力解決したことを発表する。</p> <p>⑤形式段落4・5と6の関係を読み取る。 ・4・5段落は、アップとルーズで分かること、分からないことの説明で、6段落は、それをまとめている。</p>	<p>・「分かること」「分からないこと」という視点となる言葉に印をつけさせ、表にまとめる活動を全体で行い、学習の仕方を理解させる。</p> <p>・「しかし」を境にして、分かることと分からないことが書いてあることをつかませる。</p> <p>・つまずきが予想される児童には、「何が」分かり、「何が」分からないのか、主語に気をつけて見つけていくようにさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>*ルーズで分かること、分からないことをまとめているか。 (表の用紙)</p> </div> <p>・分からないことも「細かい部分」、「広いはんい」という言葉に置き換えることができるということに、気づかせる。</p> <p>・「アップ」「ルーズ」とも、「でも」「しかし」という逆接の接続語を境に、分かることと分からないことが書いてあるという文章構成を確認する。</p> <p>・「このように」という指示語のまとめる役割を確認する。</p> <p>・4・5段落で「分かること」「分からないこと」として使われていた言葉が、6段落では「伝えられること」「伝えられないこと」に変えた、中谷さんの意図を考えさせる。</p>
<p>まとめる(12分)</p>	<p>5. 学習の振り返り</p> <p>①本時の学習のまとめを書く。 ・アップでとると、細かい部分の様子がよく分かる。しかし、広いはんいの様子はよく分からない。ルーズでとると、広いはんいの様子はよく分かる。でも、細かい部分の様子はよく分からない。</p> <p>②まとめの音読 ・一斉読</p> <p>6. 次時の予告</p>	<p>・支援が必要な児童には、穴埋め式のヒントカードを用意し、それを見ながらまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>*中心段落を考え、まとめを書いているか。(ノート)</p> </div> <p>・中谷さんの書きぶりを思い出しながら、音読させる。</p> <p>・7・8段落で、筆者が一番伝えたいことについて読み取ることを知らせる。</p>

6. 板書計画

<p>④ ⑤ ⑥</p> <p>アップとルーズで伝える 中谷 日出</p> <p>アップとルーズには、それぞれどんな ちがいがあろうのさう。</p>	<p>④</p> <p>アップの 写真</p> <p>表情・気持ち =</p> <p>細かい部分の 様子</p> <p>分かること</p>	<p>⑤</p> <p>ルーズの 写真</p> <p>おうえん席・選手たち =</p> <p>広いはんいの 様子</p> <p>でも</p> <p>選手の顔つき や視線 選手の気持ち</p>	<p>⑥</p> <p>まとめている このように</p> <p>伝えられること、伝えられないことが あり、目的におうじて切りかえて放送</p> <p>まとめ</p> <p>アップでとると、細かい部分の様子がよく 分かる。しかし、広いはんいの様子はよく 分らない。ルーズでとると、広いはんいの 様子はよく分かる。でも、細かい部分の 様子はよく分らない。</p>
--	---	---	---